（五）第791号　昭和27年9月25日 第三種郵便物認可　　みいけ　　（毎月1日、16日）　昭和41年1月1日（土）

三池の斗いと山川均と

山川菊栄

私の家の広間には、山川均の大きな額の下に、先年三池の組合本部でいただいた坑夫の胸像がおいてあります。そのまわりには山川のうえておいた庭の花が、四季のおりおりに次々と変った色どりをそえています。ここへ来られるいろいろの人々がみなそれを目にしますが、今年はからずも山川のことをたずねに来られたソ連のお客さまも、その半年余り後にみえたアメリカの若い学者が、いずれも説明も求めず、すぐ「ああ、三池ですね」と感慨のふかい顔いろでした。

こうして三池の労働者の勇敢なたたかいが、遠い外国の人々にまで感激を催させることに私は誇りを感ずると共に、それが過去の物語りというのでなく、今日も、また今日次まで、いつまでとなく続き、危く生き残った労働者や仲間の遺家族の上に、依然たる生命の危険、生活の不安、迫害や弾圧が加えられているのを思うとき、日本の現状には誇りどころか、慄りしか感ぜられないのです。

先日雇用促進関係の仕事をしているある公員がたずねてきての話に、鉱山の離職者の就職問題はもう何年にもなることなのに相かわらずで、なやみはつきない。やっと就職しても中高年層ではあり、なれない仕事で、賃金は坑夫の半額程度、妻も働かずにはいられないが、これまた思わしいことがなく、内職をすれば夜中までかかって一日百円もどうか。しかも昨今は不払いが多く、賃金ばかりか、電車賃までふみ倒されるので、うっかりしたことはすすめられないということでした。フライパンをとびだして火の中におちるとはまさにこのこと。同じ室で私と一所に、この話を聞いていた写真の山川均氏の大きな支えとなって共に斗った菊栄氏の功績は不滅である】

教育民主化へ
ともにたたかおう
市教組から寄書とどく

去る一一月一〇日、円仏市長は従来の慣行を無視して一方的に教育委員の選任を強行した。

これに抗議して、われわれは市教組とともに議会の強行採決に抗議を行なったが、このほど天牟田市教組から「教育民主化のためにともにたたかおう」と連帯の寄書きが三池労組に送られてきた。

○汗にまみれながら現場を守りぬいている私たちの意もかいせず、権力で一方的処置を強行する当局に、組合員のいかりはもえ上がっています。今回のことで、これは私たちへの弾圧であることを確信しました。お互に今後ともがんばりましょう。

（原田静江）

○今回の教育委員選任については ほんとうに残念でした。しかし今後一層団結を強化し正しい教育の方向を確立したいと思います。

今後とも協力していきましょう

（赤星次吉）

○警察権力の介入を知り、判断力批判力を失って（失わされて）育った子供時代を思い出しました。そしていまつかみとっているささやかなしあわせを決して失ってはいけないと思いました。共にたたかいましょう。

（境洋子）

意義ある12月17日

宮浦支部　弥永善治

熱気にあふれて

陽はとっぷりと西に落ち、労働会館の窓からは今日の残雪がただ一人冷めたく眼に写る。なんて寒い日が続くんだろう。道行く人々の衿元を北風がえぐって行く。

〝頑張れ、良かった、よくやったぞ〟一瞬館内は火がついたように、どよめいた嵐の拍手が巻き起る。皆んなの顔が紅潮している。新しい若い仲間が第二組合より三池労組に加入したのである。そして力強い挨拶〝私たちは三池労組の運動の正しさを信じて本日加入致しました。今後は三池労組発展のために頑張ります〟なんたか身体中がほてりだして来た。熱気に満ちた中央委員会。

今年入社したばかりのこの青年労働者が自ら進んでわれわれの戦列に参加してきたのだ。心からの歓迎の拍手を力一杯贈ろう。ともするとこの頼もしい仲間の顔がぼやけてくる。エイクソ涙までがでてきやがる。あんまり泣かせるなよ。宮川組合長の眼にも滲みでるものをおさえたようこびが。顔が真赤に輝いている。あの丸い顔が今夜は最高の顔をしとらっしゃる

あらわれた成果

この若さにあふれた青年たちの加入は大きく私たちの心に展望と自信を与えてくれた。三池斗争後五年有余の歳月、組織切り崩しのための差別に耐え、不当弾圧に耐え頑張り抜いてきた成果が、現実となって眼の前に表れてきたのであるから。戦後二十年民主教育は進むにつれて着実に芽生えてきている。もう三池の労働者が統一する日もそう遠くはあるまい。労働者はやはり一本の形に統一されなければ不幸なのだ。このことが私の頭から何時も放れない。

立派な労働者に

この第一陣の若い仲間の戦列参加に依って、続く第二陣の胎動が既に始っていると聞く、そうだろうそうだろう。三池労組に行けば首を切られるというような不安感はこれで拭いさられたのだ。われわれは今後の統一に向って努力を積み重ねなければならない。そして全国の仲間たちに、さらに三池の火を拡めなければならない。

この若い仲間の職場には三池労組員がぜんぜんいなかったのであるが今日からこの職場にも新しい三本線が誕生したのだ。なぜこの中から勇気ある加入者がでてきたのだろうか。きっとこの仲間たちは常日頃われわれの行動を見守っていたのだろう。労働者はどうあるべきか、どう行動すべきか、どう運動を進めるべきかを見つけだしたのだろう。この新しい仲間を全力をあげて守らなければならない。しかしこの加入に驚く会社は今後われわれの眼のとどかぬ所で言語に絶する説得を日夜続けるだろう。徹底した差別が襲いかかってくるだろう。そのような試練に耐え抜き、頑張らなければならない。この試練に耐え打ち勝ち、はねのけてこそ強い立派な労働者が育つのだと思う。

歴史はすすむ

このような話を耳にした〝私は入社のとき新労組員として入ったので、永久に新労組員であり、旧労には入れないものと思ってまじめてご存じだと思いますが、今時点、石炭においてはひところの三池と同じく無法地帯と化し、昔のタコ部屋と似ているのではないかという気さえいたします。

石塚でも暴力による弾圧、職場においては徹底的ないやがらせ、具体的にはわざと（計画的にということです）ミス、失敗をおこすようにしむけているし、そのワナにかかるとあとはスケジュールどおり休憩室で集団によるつるしあげで退職をせまるのです。

私は最後の最後まで、勝利の日まで抵抗をつづけます。〝最後の一兵まで〟この精神で斗いぬくことを三池労組のみなさまにお誓いしますのでどうか三池労組の同志諸君ならびに主婦の会のみなさま方がんばってください。

一九六五年一二月八日

三池労組員、主婦会員殿

私たちも三池と兄弟（18）

石塚労連　今村昭雄

不当弾圧に ハギシリ

拝啓

ながらくごぶさたいたしております。その後の三池の斗いにつきましては広瀬さんや中屋さんからいろいろ聞いてまいりましたが、いままた〝みいけ〟や社会新報で敵の攻撃を知り、歯ぎしりしているところです。

灰原書記長が炭労事務局長に転出し、その後任として塚元本所支部長が三池労組本部書記長に、また広瀬さんが本所支部長に就任されたことも知りました。

その反面、敵の攻撃も宮浦支部においては保安サボに対する抗議行動の報復として中屋さんはじめ竹村さん、真崎さんの三人の同志に解雇処分を出し、宮本分会長には出勤停止の謹慎処分を出してきていることも知ったのです。

ここも無法地帯

三池の火を受けついだ私たち石塚労連の仲間たちは、数こそ少数（現在、名古屋＝九〇名、岩倉＝三五名）になったけれども、この炎を絶やすまいと必死の抵抗をつづけております。

大まかなことは全硝労を通じてご存じだと思いますが、今時点、石炭においてはひところの三池と同じく無法地帯と化し、昔のタコ部屋と似ているのではないかという気さえいたします。

石塚でも暴力による弾圧、職場においては徹底的ないやがらせ、具体的にはわざと（計画的にということです）ミス、失敗をおこすようにしむけているし、そのワナにかかるとあとはスケジュールどおり休憩室で集団によるつるしあげで退職をせまるのです。

私は最後の最後まで、勝利の日まで抵抗をつづけます。〝最後の一兵まで〟この精神で斗いぬくことを三池労組のみなさまにお誓いしますのでどうか三池労組の同志諸君ならびに主婦の会のみなさま方がんばってください。

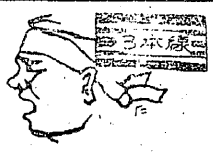
一九六五年一二月八日

三池労組員、主婦会員殿

ほやほや訪問（3）

まず家庭で話し合い

古賀一也さん（24）
スエ子さん（25）



まだ二週間

「ほやほや訪問」の名のとおり、まだ新婚二週間目の古賀さん夫妻をたずねた。

訪問したのは日曜日で、新郎の一也さんも新婦のスエ子さんも結婚二回目の日曜日をゆっくりすごしていた。スエ子さんは荒尾の紡績会社につとめ、四山鉱の仕繰夫である一也さんと共かせぎだが、スエ子さんのつとめる会社にも、合理化の嵐がおしよせ「多分クビになるだろう」と、新婚の甘さをうちくだくような冷たい話題が二人の間にかわされている。

「たとえどんなことがあっても私は洋裁がひととおりできますので、家庭生活だけは守っていけると思います」

合理化から家庭を守る奥さんの決意である。

「おひなさん」のごたる

四山支部の立山労働部長を仲人に、一五〇人の参加者をえて行なわれた二人の結婚式は一二月一一日だった。

新家庭は一也さんの御両親と同居した四人の一家で、新婚旅行を省略した二人である。

「そのかわり、おふくろが田舎に旅行してきました。あとは二人にまかせるといって。

親の方が新婚旅行したのは私たちぐらいのものでしょう。」

新生活のスタートはなかなか順調らしい。「二週間目だけど、よくケンカをします」と一也さんは語るのだが……。

二月一八日には荒地評青婦協がハッスルパーティをひらいたがつれだって参加した二人を友人たちは「おひなさんのごたる」とヒヤかした。

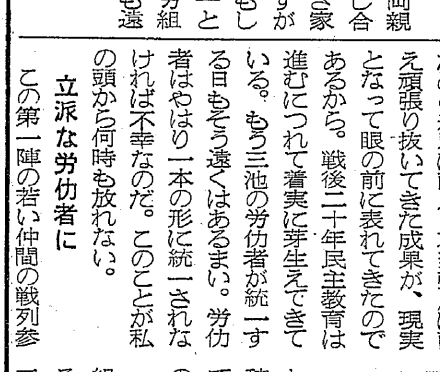
二人ともおどろずにすわって見てばかりいたから。

「ついていかないとまたお酒をのんでくるから……」

御主人はやはやくも信用を失っているようだ。

まず四人の話し合い

一也さんの当面の目標は「両親をふくめてまず四人が十分話し合う習慣をつけることです。いざ家族会議といっても固くなりますがそれと彼女がもっと人の前でもしゃべるようにオルグすること」という。二人の間に新しい三池労組のたたかう力がわき上がる日も遠くないだろう。



これから二人で作る新家庭の決意を語る夫妻